

開業106年

京阪電車大津線

歴史を繋いできた車両たち

京阪電車大津線

私が通学で毎日乗っている電車は、京阪電車大津線です。大津線は、びわ湖大津駅を中心に大津市内西部と京都市中心部地域とを結ぶ路面電車として明治

末期から昭和初期にかけて形成され、京津線と石山坂本線の2路線があります。

京津線

京津線を走る電車は4両編成であり、3つの顔があります。一つ目は、京都中心部を走る時、地下鉄の顔になります。二つ目は、京都府の滋賀の県境にある旧東海道の難所でもある逢坂山を通る時、登山鉄道の顔になります。三つ目は、大津市内を通る時、路面電車の顔になります。

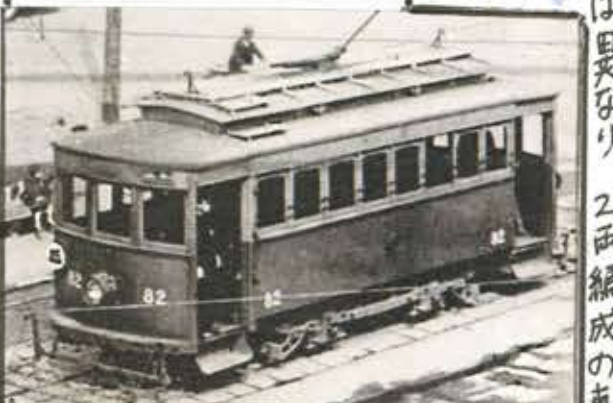
石山坂本線

石山坂本線は、京津線とは異なり、2両編成の車両が走り、近年多くのラッピング車両が運行されています。



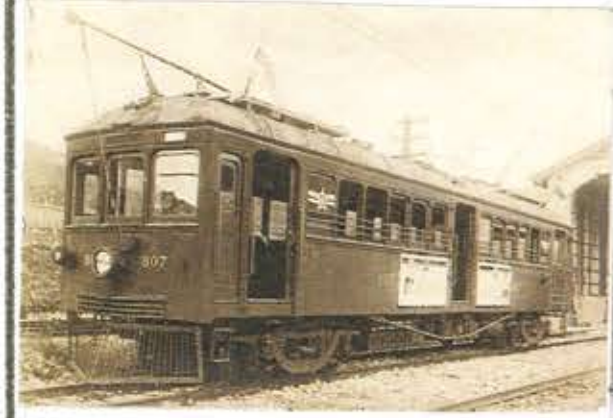
大津1型

大正2年～昭和25年
石山坂本線開業時に走った初代の電車車両。
この当時の車体は木で出来ていた。



琵琶湖鉄道汽船100型

昭和2年～昭和42年
石山坂本線が全線開通した際、(三井寺～坂本)を走った車両。石山坂本初の連結車両(2両連結)



260型

昭和32年～平成9年
京津線の近代化を図るために導入された車両。京阪線特急色で主に2両編成の急行として活躍した。



350型

昭和41年～平成9年
濃淡グリーンの特等カラーで、石山坂本線専用車両として用いた。車体全てが鋼鉄製となった。

急な坂だてへっから!

京阪電車800系

〈京津線〉1997年～現在
国内でも屈指の急勾配急カーブがありますが、ぐんぐんとか強く走ります。上栗町駅からびわ湖大津駅までは、車と一緒の道路を走る路面電車になる。



- 坂本比叡山口
- 松ノ馬場
- 穴太
- 滋賀里
- 南滋賀
- 近江神宮前
- 京阪大津京
- 大津市役所前
- 三井寺
- びわ湖大津
- 島ノ関
- 石場
- 京阪膳所
- 錦
- 膳所本町
- 中ノ庄
- 瓦ヶ辻
- 栗津
- 京阪石山
- 唐橋前
- 石山寺

大津線の運行管理

平成27年度に列車運行管理システム、電力管理システムの更新を行い、保安度の向上と保守の軽減化および省カ化を図っている。列車運行管理システムにおいては、途中駅での列車遅延情報の表示など、新たな機能を追加し、より安定した運行管理ができるようにしている。

大津の街をスイスイ

京阪電車600系/700系

〈石山坂本線〉1992年～現在
京阪膳所駅付近ではVの字を描くように電車が走ります。スイッチバックと呼ばれており、京阪膳所駅のスイッチバックは日本初のものでいわれている。



60型(びわこ号)

昭和9年～昭和45年
高速運転・急カーブの京阪線と急こう配区間が存在する京津線の両方に対応した高性能電車。乗降口もホーム用(高床)と路面用(低床)を設けていた。



編集後記

私は、昨年発生した大阪北部地震の時、ちょうど京阪電車に乗っていました。電車は小速に止まったので、地んが震りました。というアナウンスがあるまで、気がきませんでした。後で家族が、すいゆれで電車が脱線しているか、ととても心配していた事を知りました。電車の安全設備に守られたんだと強く思いました。それでも、と京阪電車のことを知りたくなったので、新聞に書き込みました。

ラッピング車両

ちはやふる号

併用軌道監視装置

大津駅付近の併用軌道(一般道路内に設置した線路)区間は、自動車交通の影響を受けやすいため、24時間体制で道路の状況を監視し、より安定的な列車運行に努めている。

自動車侵入検知装置

三井寺駅付近の併用軌道と専用軌道(専用敷地内に設置した線路)の境界から自動車が入り、専用軌道に侵入した時、接近する列車を緊急に停止させるための装置を設置している。あわせて、自動車の進行方向を矢印で表示し、ドライバーに注意を促している。

